

1 単元名 くりかえしに気をつけて、とうじょう人ぶつの様子を読もう

『きつねのおきゃくさま』(教育出版 2年上)

2 単元の目標

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読できる。 [知識及び技能](1)ク
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力]C(1)エ
- ・進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って演じようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

3 本単元における言語活動

『きつねのおきゃくさま』をペープサートげきではっぴょうしよう。

4 単元について

(1) 単元観

本単元では、学習指導要領第1学年及び第2学年「C 読むこと」(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」に基づき設定されたものである。上記の単元目標を踏まえ、学習のゴールとして、「『きつねのおきゃくさま』のペープサートげきを1年生に聞かせる」ことを位置づけた。ペープサート劇では、場面の様子や登場人物の行動に着目して気持ちを想像させ、せりふを工夫できるようにする。心の声や気持ちを表す会話を付け加えたり、読み方の工夫を書き込んだりして、台本を作る。このことで、本単元の目標である「C 読むこと」指導事項(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」の力をつけることができると考える。

これまで、子供たちは、第1学年での『おおきなかぶ』・『お手がみ』の物語文や第2学年での『えいっ』の物語文に触れ、情景や登場人物の様子を浮かべながら読む学習をしてきた。そして、『きつねのおきゃくさま』では、これまで学習してきたことをさらに発展させて、登場人物になりきって作品を味わっていく。

『きつねのおきゃくさま』は、あまんきみこの作品であり、繰り返しの構造をもつ物語である。登場人物であるきつねとひよこ、あひる、うさぎのやりとりを描いたものである。最初は、きつねにとってひよこたちは「えき」としての存在であったが、ひよこに「お兄ちゃん」と言われてから、きつねの心は揺れ動く。あひる、うさぎと登場するにつれて「えき」が「おきゃくさま」へと変化していく。そして、それは、単なる「おきゃくさま」ではなく、孤独な自分にとって、なくてはならない存在になっていくのである。内容は、繰り返し構造のため、先を予想しやすく、展開はわかりやすいという特徴がある。同じような内容が繰り返されるが、同じところはどこか、違うところは何かを考えながら読み進める。登場人物の気持ちの変化を読み進めていくうちに、登場人物の気持ちが変わってきているという物語の楽しさを味わせたい。また、この作品は、「きつねの死」によって締めくくられているが、「むかしむかし、あったとき。」や「とっぴんぱらりのぷう。」など民謡の語り口調を取り入れることによって、この作品が悲劇的なストーリーで終わらず、一つのユーモラスな民話として読み手に語りかけていることも、作品を味わう上でとても適していると考えられる。

(2) 児童の実態

(省略)

(3) 指導観

本単元では、場面の様子に着目して、登場人物の気持ちや行動を読み取る力をつけるために、『きつねのおきゃくさま』のペープサートげきを1年生に聞かせる」ことを学習のゴールとして設定した。

第一次では、教師見本である『おおきなかぶ』のペープサートを見せ、『きつねのおきゃくさま』のオリジナル台本を作成し、ペープサートで演じるという目的意識をもたせる。また、1年生に発表会を開くという学習のゴールをつかませ、意欲がもてるようにする。(仮説1)

第二次では、教科書教材できつねの気持ちを読み取る学習と、読み取ったことを使ってせりふを付け足していく台本作りの学習をセットとし、それを場面ごとに繰り返していく。

まず、場面読みでは、教科書教材『きつねのおきゃくさま』を読み、きつねになりきって、きつねの気持ちを読み取っていく。気持ちの変化を表すツール(心情メーター)を使い、きつねの心情の変化を可視化させることで、きつねの気持ちを読み取る手掛かりにさせる。心情メーターや読み取った場面の様子をもとに、ワークシートにきつねの気持ちを書かせる。可能な児童は、吹き出しに書いた言葉を文中の言葉と関連付け、その根拠を確認する。また、文中の言葉や気持ち、行動などからきつねの気持ちを想像させたりしたい。(仮説1)

次に、台本作りの学習では、自分が読み取ったきつねの気持ちを付箋(1~5枚程度)に書き、ペアやグループで話し合いながら台本に付け加えていく。話し合いでは、順番に意見を言った後、友達の考えと違うところや考えが同じでも理由が違うことについて意見交換を行い、場面にあった気持ちを台本に付箋を使って加筆していく。そして、読み取った気持ちを場面の適切な部分に当てはめて台本作りを行う。話し合い活動の最初は、話し合いに慣れるためにペアで行い、順次人数を増やし、最終的には5、6人のグループで行う。自分の意見を言うことに慣れるとともに広げることができるようにしたい。グループは音読や文章読解の技能を均等にした2つのグループを構成する。このように、第3時から第12時を同様の流れで学習するパターン学習を行うことで、学習の流れを理解しやすく、学習を主体的に進められるようにする。(仮説2)

第三次では、1年生への発表へ向けて練習を行う。その際に、班同士で見合ったり、動画を撮ったりして、自分たちの演技の良い点、改善点を見つけられるようにしたい。

また、八日市場図書館と連携し、繰り返しのある物語や、きつねが登場人物の物語を学習と並行して読書していく。教師による読み聞かせを行ったり、読書の機会を増やしたり、いろいろな本に触れる機会を意図的に設定する。また、物語を読んだ際には、読んだ本の題名と感想を書いた紙を掲示物「物語の本を読んでほらぺこあおむしを成長させよう」に貼ることを促すことで、物語を読んで感じたことや思ったことを表現する楽しさを味わせたい。(手立て)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1)ク)	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	① 進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って演じることができる。

6 指導と評価の計画(全15時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	<p><u>ものがたりと出会う</u></p> <p>○好きな場面はどこか考え、発表する。</p> <p>○文章全体を場面ごとに段落分けを行う。</p> <p>○繰り返し出てくる事柄について、確かめる。</p>	<p>・物語の中で、面白かった箇所についてノートに間奏を書き、近くの人と確かめ合う。</p> <p>・場面の概念は、時間の経過を手掛かりにして理解させる。</p> <p>・登場人物は、きつねとひよこ、あひる、うさぎ、おおかみであり、大きく分けると三回の繰り返しがあることを確認する。</p>	<p>【知識・技能】①</p> <p><u>ノート・発言</u></p> <p>・繰り返しのある展開を理解し、「同じところ」「ちがうところ」を捉えている。</p> <p>・場面分けをして、それぞれの時のきつねの思いを確認しながら音読を工夫している。</p>
	2	<p><u>ペープサート劇を1年生に発表しよう。</u></p> <p>○『おおきなかぶ』のペープサート劇を見て、学習への意欲をもつ。</p> <p>○教科書とオリジナル台本の違いを見つける作業を通して、これからの学習の見通しをもつ。</p>	<p>・教師の制作したペープサート劇を見て、これからの学習への意欲を高める。</p> <p>・教科書と気持ちを加えた台本を見比べることによって、オリジナル台本作りへの関心をもたせるようにする。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】①</p> <p><u>発言</u></p> <p>・『おおきなかぶ』のペープサート劇を聞いて、学習の見通しをもっている。</p>
第二次	3	<p><u>ひよこと出会った時のきつねの気持ちを読み取ろう。</u></p> <p>○きつねの食べたい度を考える。</p> <p>○場面の様子からきつねの気持ちを読み取り、ワークシートに書く。</p>	<p>・場面の様子からきつねの気持ちを想像させる。</p> <p>・吹き出しを使って、きつねの考えたことを表現させる。</p> <p>・想像したきつねの気持ちを発表させる。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p><u>ワークシート・発言</u></p> <p>・きつねの気持ちを読み取ることができたか。</p>
	4	<p><u>ひよこと出会った時の台本作りをしよう。</u></p> <p>○台本にきつねの心の気持ちを付け足す。</p> <p>○発表練習を行う。</p>	<p>・読み取った気持ちを使って、きつねの心の気持ちを台本に付け足す。</p> <p>・登場人物になりきったり、地の文の読み方を工夫したりして、音読練習を行うよう促す。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p><u>ワークシート・観察</u></p> <p>・場面にあったきつねの心の声を台本に付け加えることができたか。</p>
	5	<p><u>ひよことあひるに出会った時のきつねの気持ちを読み取ろう。</u></p> <p>○きつねの食べたい度を考える。</p> <p>○場面のようにすからきつねの気持ちを想像して、ワークシ</p>	<p>・場面の様子からきつねの気持ちを想像させる。</p> <p>・ふきだしを使って、きつねの考えたことを表現させる。</p> <p>・想像したきつねの気持ちを発表させる。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p><u>ワークシート・発言</u></p> <p>・きつねの気持ちを読み取ることができたか。</p>

並
行
読
書



	<p>ートに書く。</p>		
6	<p><u>ひよことあひるに出会った時の台本作りをしよう。</u></p> <p>○台本にきつねの心の気持ちを付け足す。</p> <p>○発表練習を行う。</p>	<p>・読み取った気持ちを使って、きつねの心の気持ちを台本に付け足す。</p> <p>・登場人物になりきったり、地の文の読み方を工夫したりして、音読練習を行うよう促す。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p><u>ワークシート・観察</u></p> <p>・場面にあったきつねの心の声を台本に付け加えることができたか。</p>
7 本 時	<p><u>ひよことあひるとうさぎに出会った時のきつねの気持ちを読み取ろう。</u></p> <p>○きつねの食べたい度を考える。</p> <p>○場面のようにすからきつねの気持ちを想像して、ワークシートに書く。</p>	<p>・場面の様子からきつねの気持ちを想像させる。</p> <p>・吹き出しを使って、きつねの考えたことを表現させる。</p> <p>・想像したきつねの気持ちを発表させる。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p><u>ワークシート・発言</u></p> <p>・きつねの気持ちを読み取ることができたか。</p>
8	<p><u>ひよことあひるとうさぎに出会った時の台本作りをしよう。</u></p> <p>○台本にきつねの心の気持ちを付け足す。</p> <p>○発表練習を行う。</p>	<p>・読み取った気持ちを使って、きつねの心の気持ちを台本に付け足す。</p> <p>・登場人物になりきったり、地の文の読み方を工夫したりして、音読練習を行うよう促す。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p><u>ワークシート・観察</u></p> <p>・場面にあったきつねの心の声を台本に付け加えることができたか。</p>
9	<p><u>おおかみとたたかった時の気持ちを読みとろう。</u></p> <p>○きつねの食べたい度を考える。</p> <p>○場面のようにすからきつねの気持ちを想像して、ワークシートに書く。</p>	<p>・場面の様子からきつねの気持ちを想像させる。</p> <p>・吹き出しを使って、きつねの考えたことを表現させる。</p> <p>・想像したきつねの気持ちを発表させる。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p><u>ワークシート・発言</u></p> <p>・きつねの気持ちを読み取ることができたか。</p>
10	<p><u>おおかみと戦った時の台本作りをしよう。</u></p> <p>○台本にきつねの心の気持ちを付け足す。</p> <p>○発表練習を行う。</p>	<p>・読み取った気持ちを使って、きつねの心の気持ちを台本に付け足す。</p> <p>・登場人物になりきったり、地の文の読み方を工夫したりして、音読練習を行うよう促す。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p><u>ワークシート・観察</u></p> <p>・場面にあったきつねの心の声を台本に付け加えることができたか。</p>
11	<p><u>きつねは、なぜ、はずかしそうにわらってしんだのだろうか。</u></p> <p>○きつねの食べたい度を考える。</p> <p>○場面のようにすからきつねの気持ちを想像して、ワークシートに書く。</p>	<p>・場面の様子からきつねの気持ちを想像させる。</p> <p>・吹き出しを使って、きつねの考えたことを表現させる。</p> <p>・想像したきつねの気持ちを発表させる。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p><u>ワークシート・発言</u></p> <p>・きつねの気持ちを読み取ることができたか。</p>



	12	<p>きつねがしんだ時の台本作りをしよう。</p> <p>○台本にきつねの心の気持ちを付け足す。</p> <p>○発表練習を行う。</p>	<p>・読み取った気持ちを使って、きつねの心の気持ちを台本に付け足す。</p> <p>・登場人物になりきったり、地の文の読み方を工夫したりして、音読練習を行うよう促す。</p>	<p>【思考・判断・表現】①</p> <p>ワークシート・観察</p> <p>・場面にあったきつねの心の声を台本に付け加えることができたか。</p>
第三次	13	<p>発表に向けて練習しよう。</p> <p>○発表に向けて練習しよう。</p>	<p>・ペープサートを使って、劇ができるよう練習する。</p> <p>・間の取り方、言葉の強弱、気持ちのこめ方などに気を付けて音読させる。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】①</p> <p>表現・音読</p> <p>・登場人物になりきってペープサート劇の練習を行っているか。</p>
	14	<p>リハーサルをしよう。</p> <p>○発表に向けてリハーサルを行う。</p>	<p>・お互いのペープサート劇を見る。</p> <p>・間の取り方、言葉の強弱、気持ちのこめ方などに気を付けて音読させる。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】①</p> <p>表現・音読</p> <p>・登場人物になりきってペープサート劇の練習を行っているか。</p>
	15	<p>1年生に発表しよう。</p> <p>○1年生にペープサート劇の発表をする。</p> <p>○ペープサート劇を振り返る。</p>	<p>・ペープサート劇をグループに分かれて発表する。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】①</p> <p>表現・音読</p> <p>・登場人物になりきってペープサート劇を1年生にきかせることができているか。</p>

7 本時の指導(7/15)

(1) 評価規準

- ・場面の様子をとらえて、きつねの気持ちを読み取っている。【思考・判断・表現①】

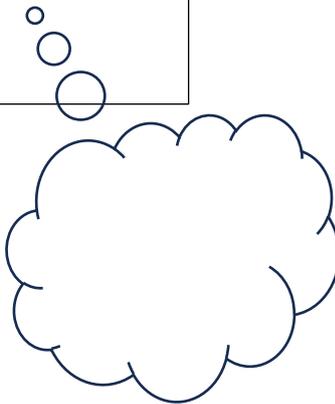
(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>1 学習のめあてと学習の流れをつかむ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">ひよことあひるとうさぎに出会った時のきつねの気持ちを読み取ろう。</p>	<p>・前時までの学習を掲示しておく。</p>	
5	<p>2 本時の学習場面を音読する。</p>	<p>・きつねの気持ちを考えながら、音読させる。</p> <p>・音読が苦手な児童には、指で文字を追って読むよう声をかける。</p>	ワークシート

		<ul style="list-style-type: none"> ・きつねの食べたい度はどれくらいなのか想像しながら読ませる。 	
5	3 ひよことあひるとうさぎに出会った時のきつねの食べたい度は、どのくらいなのかをハートメーターであらわす。	<ul style="list-style-type: none"> ・きつねの食べたい度をハートメーターで操作させ、表現させる。 	ハートメーター
10	4 ひよことあひるとうさぎの会話を聞いた時のきつねの気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・きつねの気持ちを表現しやすいよう、ワークシートに吹き出しを使用する。 ・気持ちが書き終わった児童には、根拠となる部分を本文から探し、説明するように伝える。 ・きつねの気持ちを考えることが難しい児童には、他の動物たちの会話文からきつねの気持ちを考えるよう声をかける。 	ワークシート
10	5 場面の様子から読み取ったきつねの気持ちについて全体で共有する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ワークシート①【思考・判断・表現①】 ≪「努力を要する」と判断した児童への手立て≫ ・きつねの気持ちについて考える箇所を指定して、考えさせる。</p> </div>	
5	6 本時の学習について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・わかったことや感想を書き、本時の学習を振り返らせる。 	
5	7 次時の学習について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時では、今回読み取ったきつねの気持ちをもとに、台本作りやペープサート劇の練習を知らせる。 	

(3) 板書計画

挿
絵



① ひよことあひるとうさぎに出会ったときの
 きつねの気持ちについて考えよう。

きつねの食べたい度メーター